
エコアクション21

環境経営レポート・2024



対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日

作成日：2025年6月14日

東海地区スバルグループ

名古屋スバル自動車株式会社

岐阜スバル自動車株式会社

三重スバル自動車株式会社

～ 目 次 ～

【1】	組織概要	1
【2】	推進組織図、EMS 推進責任権限表	3
【3】	環境経営方針	5
【4】	過去5年間の実績推移	6
【5】	環境経営目標	7
	1. 短・中期目標（2024～2026 年度まで）	7
【6】	2024 年度環境負荷状況	8
	1. 目標に対する実績値と評価	8
【7】	環境経営活動の取組み	10
	1. 計画とその行動評価、次年度の取組み	10
	2. 取組み事例	12
【8】	環境関連法規への違反、訴訟の有無	15
	1. 主な環境関連法規	15
	2. 違反、訴訟の有無	15
【9】	代表者の評価・見直し	16
	1. 全体評価	16
	2. 見直し	16

【1】組織概要



1. 統括会社

(1) 会社名：名古屋スバル自動車株式会社

(2) 所在地：愛知県名古屋市北区落合町233

(3) 代表者氏名：代表取締役社長 太田 士郎

(4) 環境管理責任者及び担当者連絡先

EA21 推進責任者	代表取締役社長			太田 士郎
EA21 副推進責任者	統括管理本部	本部長		西尾 輝英
環境管理責任者		統括総務部	部長	久我 央
EA21 事務局長		統括総務部	総務課長	濱添 陽充
EA21 事務局		統括総務部	総務課	岡崎 友則
EA21 事務局		統括総務部	総務課	西尾 美穂
EA21 実行責任者※	名古屋スバル	サービス部品部	サービス課長	佐野 繁久
連絡先	TEL：052-901-8611/FAX：052-901-8263			

※印は名古屋スバル自動車のEA21 実行責任者を示す。

※印以外はEA21 統括環境管理責任者及び事務局を示す。

(5) 事業の内容

スバル車の販売並びに付随する関連業務

- ①自動車の販売
- ②中古自動車販売
- ③前各号に関する部品・用品等の関連商品の販売
- ④車検・定期点検・一般修理
- ⑤自動車損害賠償保障法に基づく保険代理店業

(6) 事業の規模(名古屋スバル自動車株式会社を示す)

年間売上	31,778百万円	2024年度
新車販売台数	5,857台	2024年度
中古車販売台数	4,253台	2024年度
従業員数(派遣 パート含む)	533名	2025年3月末現在
店舗数	本社、新車21店舗、中古車4店舗、部品センター1店舗	

(7) エコアクション21 認証・登録範囲：本社を含む全組織、全活動が対象である。

2-1. 事業会社

(1) 会社名：岐阜スバル自動車株式会社

(2) 所在地：岐阜県岐阜市細畑 1-7-15

(3) 代表者氏名：代表取締役社長 森島 広良

(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

EA21 推進責任者	代表取締役社長		森島 広良
EA21 副推進責任者	営業支援部	部長	清水 辰己
EA21 実行責任者	サービス部品部	サービス課長	市原 修
連絡先	TEL：058-245-8416/FAX：058-245-5259		

(5) 事業の内容：統括会社（5）の①～⑤に同じ。

(6) 事業の規模

年間売上	8,078百万円	2024年度
新車販売台数	1,537台	2024年度
中古車販売台数	995台	2024年度
従業員数（派遣 パート含む）	170名	2025年3月末現在
店舗数	新車8店舗（本社含む） 中古車1店舗	

(7) エコアクション21 認証・登録範囲：本社を含む全組織、全活動が対象である。

2-2. 事業会社

(1) 会社名：三重スバル自動車株式会社

(2) 所在地：三重県津市高茶屋小森町 398

(3) 代表者氏名：代表取締役社長 日比 浩一

(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

EA21 推進責任者	代表取締役社長		日比 浩一
EA21 副推進責任者	営業支援部	部長	鳥居 彰
EA21 実行責任者	サービス部品部	サービス課長	臼井 薫
連絡先	TEL：059-271-6030/FAX：059-271-6033		

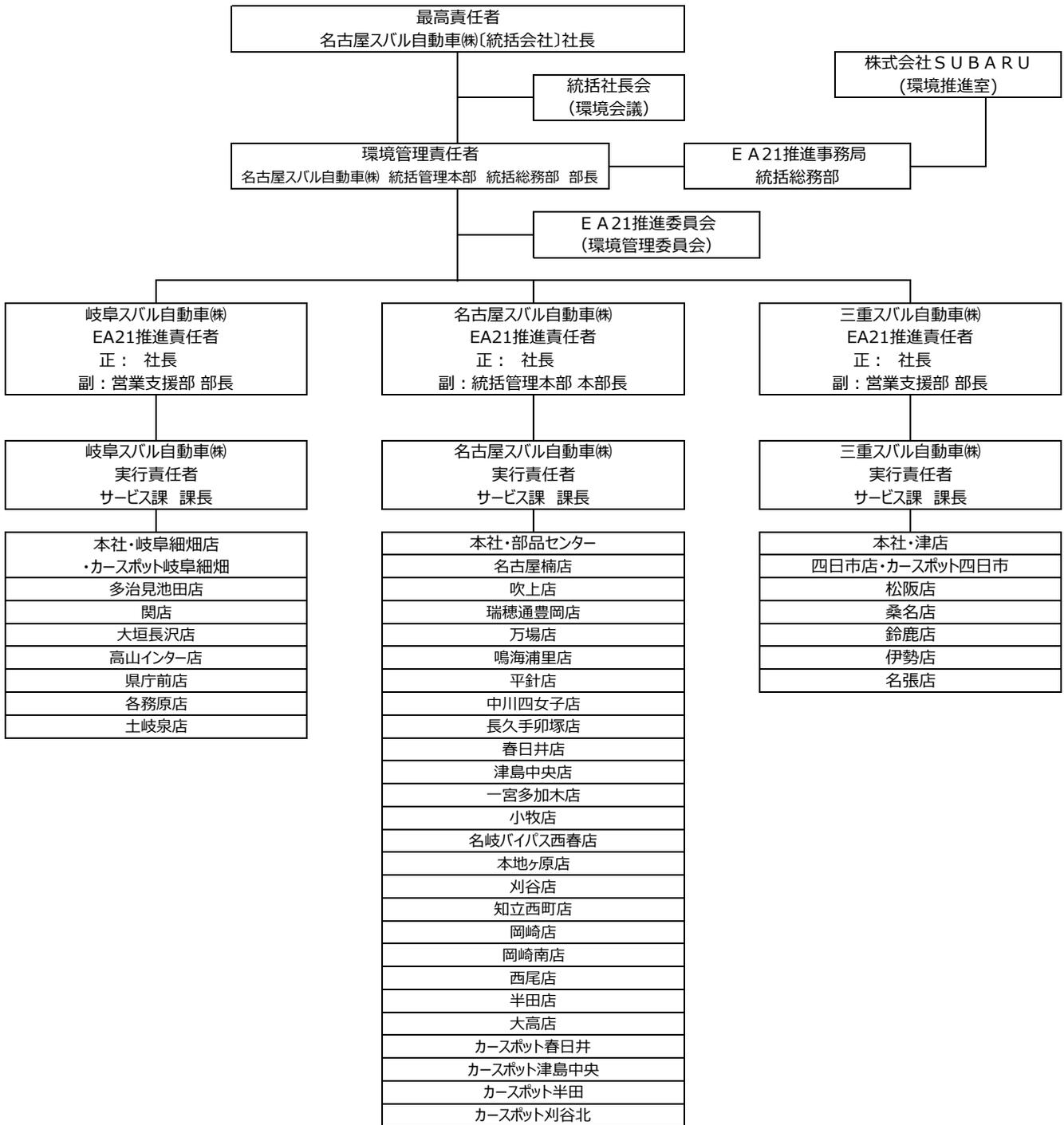
(5) 事業の内容：統括会社（5）の①～⑤に同じ。

(6) 事業の規模

年間売上	7,330百万円	2024年度
新車販売台数	1,394台	2024年度
中古車販売台数	1,021台	2024年度
従業員数（派遣 パート含む）	149名	2025年3月末現在
店舗数	新車7店舗（本社含む） 中古車店舗1店舗	

(7) エコアクション21 認証・登録範囲：本社を含む全組織、全活動が対象である。

【2-1】推進組織図



【2-2】EMS 推進権限責任表



担当者、会議体		役割、責任及び権限	
名古屋バル自動車(株) 社長（統括会社）		<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステム（EMS）執行の最高責任者 ・環境経営方針を定める。また必要に応じ見直す ・EMS の見直し（マネジメントレビュー）を行う ・要員（人材）、設備、資金等の資源を経営上対応可能な範囲で用意する ・環境管理責任者を任命する 	
環境管理責任者	名古屋バル自動車(株) 統括総務部 部長	<ul style="list-style-type: none"> ・本業の業務とは関わりなく、EMS を確立・実施・維持する責任と権限を有する ・環境経営方針に沿って環境経営目標（中期と当該年度）を策定する ・「環境関連法規制等一覧チェック表」を作成し、最新状態を維持する ・環境マニュアル、手順書、帳票等の文書の最新版を維持管理する ・緊急事態の訓練を計画し、推進する（実施は該当する各店舗） ・環境に関する行政機関対応の責任者（法規制対応も含む） ・マネジメントレビューの報告情報を取り纏め報告する ・環境に関わる教育訓練を推進する ・外部からの環境苦情対応の責任者 	
EA21 推進事務局	名古屋バル自動車(株) 統括総務部 「統括事務局」と呼ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者を補佐し、EMS の確立・実施・維持全般に関する事務局業務を行う ・環境マニュアル・手順書・帳票等の見直し、最新版管理 ・各部門、各店舗との調整、情報の伝達 ・全社 EMS の進捗管理、審査対応窓口（外部との調整を含む） ・マネジメントレビューの情報収集・整理 ・株式会社 SUBARU の環境推進部門との窓口 	
各社	推進責任者	正：事業会社社長 副：営業支援部責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動全体の責任者 ・環境経営方針、環境経営目標の従業員への周知
	実行責任者	名入：サービス課 課長 岐入：サービス課 課長 三入：サービス課 課長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動の実施責任者 ・「環境への取り組みの自己チェックリスト」の取り纏め ・環境経営目標の推進管理
	部門責任者 店舗責任者	部門長 店舗推進責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・各部門、各店舗の環境活動の実質的な実施責任者 ・各部門長（担当する部門長）、各店長が担当する
	一般従業員		<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動の重要性を自覚し、必要な環境教育訓練を受け、環境経営方針、環境経営目標、環境活動実施計画書に基づいて日常の環境活動に取り組む
マネジメントレビュー	マネジメントレビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・EMS の有効性の評価と見直し ・環境会議の場を利用して 1 回/年（5 月）開催する 	
環境会議 （統括社長会）	名古屋バル自動車(株) 社長 （環境に関わる事項についてのみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・構成員：各社社長、各社役員、統括総合営業推進部長、統括サービス部品部長、統括中古車部長、統括経理部長、統括総務部長、統括監査部長、その他参加者 ・会議の目的：環境活動に関する重要な課題がある場合、経営会議の一部として議論する ・開催頻度：1 回/月 	
EA21 推進委員会 （環境管理委員会）	名古屋バル自動車(株) 統括総務部 部長	<ul style="list-style-type: none"> ・構成員：環境管理責任者、各社推進責任者（副）、各社実行責任者、統括事務局 ・会議の目的：環境活動の推進、情報伝達、意見交換等 ・開催頻度：随時 	

※統括監査部は店舗監査を実施

環境経営方針

《基本理念》

東海地区スバルグループ(以下「当グループ」という)は、地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、資源の有効活用と顧客満足度の向上を図り、スバル車の販売・整備等の事業活動から生ずる、地域および次世代の環境への影響を第一に考え、環境と調和のとれた持続的発展へ取り組みます。

また、住みよい地域環境と、地球環境の保全を積極的に図り、事業経営の全領域で環境保全に配慮しつつ社会の発展に貢献してまいります。

《基本方針》

この理念のもと、当グループが行なうスバル車および部品の販売、整備、修理、保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー、廃棄物の排出、リサイクル、公害防止に配慮した活動、環境保全に努めます。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、定期的に環境監査を実施し環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進し、環境管理の維持向上を図ります。
3. 環境に関する法規制、条例、及び当グループが同意する指針、その他の要求事項を遵守します。
4. 特に次の環境保全の重要項目に対して、環境経営目標を設定し取り組み、必要があれば見直しを行います。
 - ①省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）
 - ②省資源（水使用量、紙使用量）
 - ③廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量削減）
 - ④化学物質管理の強化
 - ⑤今後の店舗展開及び機材投入の際には環境経営方針に合ったものを取り入れる
 - ⑥店舗周辺の清掃を積極的に行ない、地域の環境改善に貢献する
 - ⑦本業の事業活動の中でエコカー・エコ商品の販売を推進し、環境配慮に取り組む
5. この環境経営方針を全従業員に周知し、教育活動を推進し地域社会に貢献します。



環境経営方針制定日：2019年4月1日
名古屋スバル自動車株式会社
(東海地区スバルグループ統括)

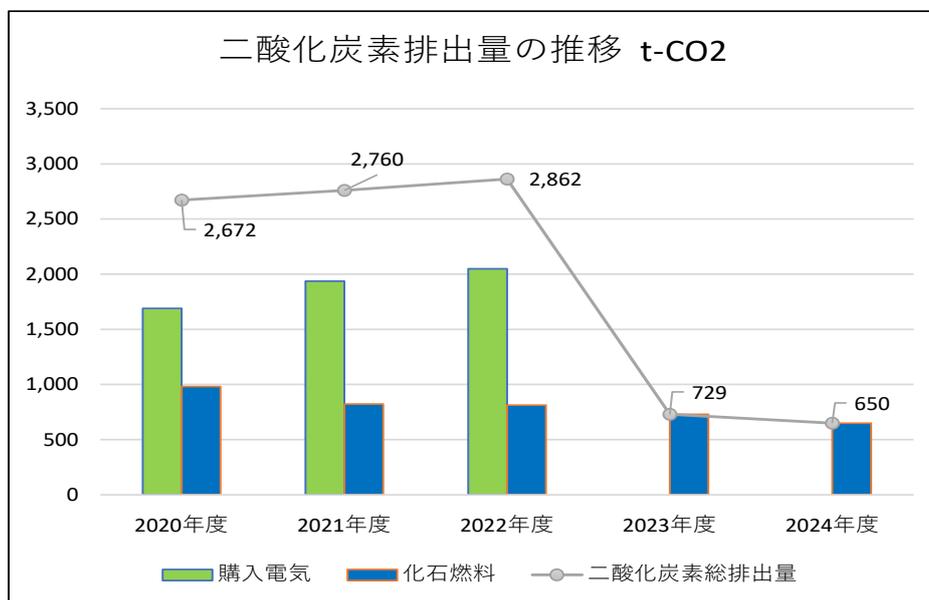
代表取締役社長 太田 士郎

【4】過去5年間の実績推移



1. 二酸化炭素排出量推移

(1) 東海地区スバルグループ



tCO ₂	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
購入電気	1,689	1,937	2,048	0	0
化石燃料	983	822	814	729	650
二酸化炭素総排出量	2,672	2,760	2,862	729	650

購入電力の二酸化炭素排出係数は、2017年度中部電力調整後排出係数 0.472kg-CO₂/kWh を使用。2023年度以降は中部電力のCO₂フリー電力・グリーン電力を購入。排出係数は 0kg-CO₂/kWh。

2020年度以降、来店型販売の形態となりガソリンなどの化石燃料が大幅に減った。2023年度以降は中部電力のCO₂フリー電力・グリーン電力の導入により、電力のCO₂排出量が0になった。

【5】環境経営目標



当グループの事業活動が環境に与える負荷を把握し、影響が大きいと考えられるエネルギーの使用量・産業廃棄物の排出量及び水使用量の削減活動に重点を置き、環境負荷の低減及び環境汚染の防止に努め、同時にリサイクルの推進も積極的に行います。

1. 短・中期目標（2024年度から2026年度まで）

前年度実績を基準に1%削減を目標とし、2024年度から2026年度までの目標値を以下のとおり決めました。各社、各事業所はこの目標を年度目標に反映し活動を展開しました。

（1）東海地区スバルグループ目標（各社、各事業所共通）

項目	単位	2023年度実績	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標	
CO2排出量	kg-CO2	728,839	2023年度実績 -1%	2024年度実績 -1%	2025年度実績 -1%	
購入電力量	kg-CO2	0				
化石燃料	kg-CO2	728,839				
電気使用量	kWh	4,190,605	2023年度実績 -1%	2024年度実績 -1%	2025年度実績 -1%	
化石燃料	ガソリン	L				259,460
	灯油	L				1,698
	軽油	L				28,697
	LPG	kg				10,362
	都市ガス	Nm3				8,120
水	m3	19,927	2023年度実績 -1%	2024年度実績 -1%	2025年度実績 -1%	
一般廃棄物	t	67,352				
産業廃棄物	t	927,875				
混合廃棄物	t	470,631				

2023年度以降は中部電力のCO2フリー電力・グリーン電力で排出係数は0kg-CO2/kWh。
東海地区スバルグループ（名古屋、岐阜、三重）では化学物質（PRTR対象物質）は使用していない。

【6】2024 年度環境負荷状況



1. 目標に対する実績値と評価

(1) 東海地区スバルグループ

項目	単位	2023年度実績	2024年度目標	2024年度実績	増減率	評価	
CO2排出量	kg-CO2	728,839	721,551	649,811	-11%	○	
購入電力量	kg-CO2	0	0	0	0	○	
化石燃料	kg-CO2	728,839	721,551	649,811	-11%	○	
電気使用量	kWh	4,190,605	4,148,699	4,692,840	+12%	×	
化石燃料	ガソリン	L	259,460	256,865	228,020	-12%	○
	灯油	L	1,698	1,681	1,590	-6%	○
	軽油	L	28,697	28,410	25,430	-11%	○
	LPG	kg	10,362	10,259	9,951	-4%	○
	都市ガス	Nm3	8,120	8,039	9,938	+22%	×
水	m3	19,927	19,728	17,955	-10%	○	
一般廃棄物	kg	67,352	66,678	63,132	-6%	○	
産業廃棄物	kg	927,875	918,596	927,801	-0%	△	
混合廃棄物	kg	470,631	465,925	516,273	+10%	×	

2023 年度以降は中部電力の CO2 フリー電力・グリーン電力で排出係数は 0kg-CO2/ kWh。

(2) 名古屋スバル自動車

項目	単位	2023年度実績	2024年度目標	2024年度実績	増減率	評価	
CO2排出量	kg-CO2	386,835	382,967	367,770	-5%	○	
購入電力量	kg-CO2	0	0	0	0	○	
化石燃料	kg-CO2	386,835	382,967	367,770	-5%	○	
電気使用量	kWh	2,725,945	2,698,686	3,050,634	+12%	×	
化石燃料	ガソリン	L	153,728	152,191	142,242	-7%	○
	灯油	L	253	250	464	-	
	軽油	L	11,455	11,340	14,147	+24%	×
	LPG	kg	-	-	-	-	-
	都市ガス	Nm3	-	-	53	-	-
水	m3	13,570	13,434	12,270	-10%	○	
一般廃棄物	kg	49,354	48,860	42,074	-15%	○	
産業廃棄物	kg	514,505	509,360	565,603	+8%	×	
混合廃棄物	kg	301,751	298,733	366,280	+21%	×	

2023 年度以降は中部電力の CO2 フリー電力・グリーン電力で排出係数は 0kg-CO2/ kWh。

(3) 岐阜スバル自動車

項目	単位	2023年度実績	2024年度目標	2024年度実績	増減率	評価	
CO2排出量	kg-CO2	222,167	219,945	174,234	-22%	○	
購入電力量	kg-CO2	0	0	0	0%	○	
化石燃料	kg-CO2	222,167	219,945	174,234	-22%	○	
電気使用量	kWh	766,501	758,836	859,076	+12%	×	
化石燃料	ガソリン	L	59,918	59,319	43,799	-27%	○
	灯油	L	1,445	1,430	1,128	-22%	○
	軽油	L	11,990	11,870	7,211	-40%	○
	LPG	kg	10,362	10,259	9,951	-4%	○
	都市ガス	Nm3	8,120	8,039	9,885	+22%	×
水	m3	2,567	2,541	2,205	-14%	○	
一般廃棄物	kg	5,452	5,397	5,904	+8%	×	
産業廃棄物	kg	209,124	207,033	201,765	-4%	○	
混合廃棄物	kg	82,080	81,259	77,160	-6%	○	

2023年度以降は中部電力のCO2フリー電力・グリーン電力で排出係数は0kg-CO2/kWh。

(4) 三重スバル自動車

項目	単位	2023年度実績	2024年度目標	2024年度実績	増減率	評価	
CO2排出量	kg-CO2	119,836	118,638	107,808	-10%	○	
購入電力量	kg-CO2	0	0	0	0%	○	
化石燃料	kg-CO2	119,836	118,638	107,808	-10%	○	
電気使用量	kWh	698,159	691,177	783,130	+12%	×	
化石燃料	ガソリン	L	45,813	45,355	41,963	-8%	○
	灯油	L	-	-	-	-	-
	軽油	L	5,252	5,199	4,052	-23%	○
	LPG	kg	-	-	-	-	-
	都市ガス	Nm3	-	-	-	-	-
水	m3	3,791	3,753	3,455	-9%	○	
一般廃棄物	kg	12,546	12,421	14,154	+13%	×	
産業廃棄物	kg	187,749	185,872	161,596	-14%	○	
混合廃棄物	kg	86,800	85,932	65,033	-25%	○	

2023年度以降は中部電力のCO2フリー電力・グリーン電力で排出係数は0kg-CO2/kWh。

評価・・・○：目標達成 △：目標未達成だが前年度より削減 ×：目標未達成

【7】環境経営活動の取組み



1. 計画とその行動評価、次年度の取組み

	計画	取組み結果	評価	次年度の取組
本来業務による環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> ①エコカーの販売促進 ②環境に配慮したCO₂フリー電気の使用 ③サービス部門の正確な作業推進 ④スマートボード活用による入庫管理、残業削減 ⑤点検パックの積極的な提案の実施 ⑥12ヶ月点検早期入庫予約平準化 ⑦タイヤを始めとするエコ商品の販売促進（燃費向上） 	<ul style="list-style-type: none"> ①ハイブリッド車を積極的に販売することができた ②CO₂フリー電気を全店舗で使用し、CO₂の削減を図った ③業務プロセス改善の取組みにより、正しい点検確かな整備を継続 ④⑤Web予約やスマートボードの活用により早期予約の促進や入庫の平準化に取組み効率化を図った ⑥全数提案を実施し付保率を上げることが出来た ⑦提案によるエコ商品の拡販を行った 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む ④継続して取組む ⑤継続して取組む ⑥継続して取組む ⑦継続して取組む
電気使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ①節電への取組強化を促す掲示を電源SW付近に貼り、不在時、不要な照明の消灯を徹底する ②冷暖房の室温管理（暖房22℃、冷房26℃）夏場、冬場の商談スペースの配置の考慮 ③高圧デマンド監視装置導入による節電、クールビズの導入（5月～10月） ④サイン看板灯、広告塔点灯、消灯時間の管理 春（3～4月）18:00～19:30 夏（5～8月）19:00～19:30 秋（9～11月）18:00～19:30 冬（12～2月）16:30～19:30 	<ul style="list-style-type: none"> ①③④節電の意識は定着している ②お客様、従業員の健康管理面への考慮で（CS向上、熱中症防止）適切に温度管理を行った 夏季冬季の外気温の影響もあり、空調機の電気使用量は前年度に比べ増加した。 WBGT測定器を活用、働きやすい環境を実現し、省エネにも取り組んでいる 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む（職場環境の改善として、工場の冷暖房化完了） ③継続して取組む ④継続して取組む
燃料使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ①効率的な代車等の使用により、社用車を削減する ②社用車の入替え及びメンテナンス効率的な代車の使用 ③エコドライブの推進、マタニティドライブの推進活動（マタニティドライブとは妊婦さんや新生児が同乗しているつもりで運転を行うエコドライブです） ④来店型店舗への取組みをさらに推進し訪問型から来店型への移行による燃料使用量削減を図った 	<ul style="list-style-type: none"> ①②効率的な代車等の使用、社用車メンテナンスを適切に実施した ③エコドライブの推進、マタニティドライブの推進活動を啓蒙した（マタニティドライブとは妊婦さんや新生児が同乗しているつもりで運転を行うエコドライブ） ④来店型の取組を社員に理解させ取組の定着を図った 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む ④継続して取組む

	計画	取り組み結果	評価	次年度の取組
水道水使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ①水道の故障、水道管の破損時は速やかに管理担当者に連絡し修復を行なう ②車両洗車時の節水 ③蛇口付近に節水を呼びかける張り紙等を貼り節水に対する注意喚起をする 	<ul style="list-style-type: none"> ①③活動は定着している ②整備入庫車両に対する無料洗車サービス削減の取組を行った結果、車両洗車台数の減少に繋がった 入庫時に有料洗車の提案を行った（岐阜） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む
廃棄物排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ①マニフェストの管理を徹底する ②廃クーラントの管理を徹底する ③分別再資源化の推進（可燃ごみ、紙ごみ、ダンボール、プラごみ、金属ごみ） ④一般廃棄物は適正に管理し一定量になったら許可業者に引渡する ⑤ツナギ服のマテリアルサイクルを継続 ⑥連絡便書類用封筒の繰り返し利用とボールペン等替え芯等リユースの取組みを更に進める 	<ul style="list-style-type: none"> ①-④一般/産業廃棄物の適正処理を徹底した 一般廃棄物の削減（名古屋）、産業廃棄物の内数である混合廃棄物の削減（岐阜、三重）は分別・再資源化意識が浸透してきた結果と考えられる。 ⑤ツナギ服のマテリアルサイクルにより約 225 kg を削減し、自動車部品に変換できた ⑥連絡便書類用封筒の再利用、詰め替え用文具の使用等、一般ゴミの削減に努めた 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①電子マニフェスト導入を検討する ※三重スバルは導入済み ②継続して取組む ③継続して取組む ④継続して取組む ⑤継続して取組む ⑥継続して取組む
紙（コピー）用紙削減	<ul style="list-style-type: none"> ①メールの活用（FAX の削減、ムダに印刷しない） ②コンプライアンスに違反しない裏紙使用の徹底 ③DX ツールの導入によるペーパーレス化促進 	<ul style="list-style-type: none"> ①-③店舗間の差はあるものの全社的な業績は上がったが、紙の使用量は削減できた 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ①地域社会への環境保全活動 ②一つのいのちプロジェクト推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①店舗周辺、近隣の清掃活動の実施（クリーンデー） 交通違反、交通事故撲滅運動への参加 インターンシップ受入れ 子ども 110 番の家登録 ②ライフセーバーカー寄贈「思い出のランドセルギフト」実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む
自動車部品リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ①自動車部品のリサイクルを遵守する 	<ul style="list-style-type: none"> ①廃バンパー、廃バッテリー、廃油（廃 ENG オイル、廃 MISN オイル）、などは再資源化の為、積極的に回収した。 中古パーツを積極的に活用（三重） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して取組む

	計画	取り組み結果	評価	次年度の取組
その他	①グリーン購入法対象物の購入促進 ②環境関連法令を遵守する ③内部監査の実施	①事務用品、省エネ基準適合商品を積極的に購入した ②③統括監査部監査時に、環境関連法令を遵守しているか確認を行った	○	①継続して取組む ②継続して取組む ③継続して取組む

2. 取組み事例

(1) 電気使用量削減

- ①電源付近に節電への取組強化を促す掲示
- ②冷暖房の室温管理（暖房 22℃冷房 26℃）
工場エアコンに関しては、暑さ指数計を使用して管理。
※暑さ指数（WBGT：Wet Bulb Globe Temperature）
- ③クールビズの導入（5月～10月）
- ④電化製品購入について省エネ重視の製品導入。
- ⑤定休日の広告塔の消灯。
- ⑥デマンドコントローラーによる電気使用量の見える化
※デマンド監視サービスは、刻々と変化する電気使用量を常時監視し、管理目標として設定されたデマンド値を超過しないように警告やランプで知らせるサービス。



(2) ガソリン使用量の削減

- ①社用車の適正配備
- ②アイドリングストップの推進
- ③エコ運転の推進（マタニティドライブを含むエコドライブ5ヶ条の励行。）
※マタニティドライブとは妊婦さんや新生児が同乗しているつもりで運転を行なうエコドライブの取組み。

(3) CO₂ 排出量の削減

- ①100%CO₂フリー電気の導入
※2022年秋よりCO₂フリー電気(中部電力ミライズ株式会社が提供するGreenでんき)の導入によって実質的なCO₂排出量の削減に努めている。

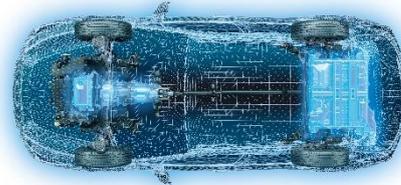
(4) 自社製品、サービスに付随する環境への配慮

①S-HEV 販売の推進



※S-HEV（Strong Hybrid Electric Vehicle）とは、エンジンとモーターを組み合わせることで燃費効率を高め、モーターのみで走行できるストロングハイブリッドシステムのことを言う。

②e-BOXER 販売の推進



※e-BOXER とは、水平対向エンジンと電動技術を組み合わせた新開発のパワーユニット効率を高めた水平対向エンジンに、コンパクトで高性能なモーターとバッテリーをシンメトリカル AWD レイアウトに統合

③EV 販売の推進



※EV とは、化石燃料を燃焼させる内燃機関を持たないことから、走行時に二酸化炭素や窒素酸化物が出ないゼロエミッション車のことを言う。

④運転支援機能「アイサイト」搭載車の販売



※交通事故を軽減することで余分な廃棄物排出の抑制につなげている。

⑤エコタイヤ販売



※低燃費タイヤとは

JATMA（一般社団法人日本自動車タイヤ協会）が定めたレーティングシステム（等級制度）で低燃費と安全性が一定以上のレベルを満たしたタイヤです。

※主なタイヤメーカー環境対応商品マーク

ブリヂストン



ブリヂストンは、2005年より、新たに発売する商品・サービスで、ブリヂストンの「環境対応商品基準」を満たすものを「環境対応商品」とし、「環境対応商品マーク」を付与しています。

環境対応商品のタイヤは、乗用車用タイヤからトラック・バス用、産業車両用まで、幅広いラインナップが揃っています。これらの商品は、ブリヂストンのタイヤ開発・設計における先端技術を結集し、タイヤの転がり抵抗の低減や軽量化などを図ったものです。車の燃費向上による走行時のCO₂排出量の削減やタイヤライフの向上など、経済性や環境性に富んだ商品としてお客様から評価されています。

ダンロップ



ダンロップは、低転がり抵抗を追求することによって、低燃費性能を実現し、環境への負荷を徹底して抑えることに力を注いでいます。

環境性能の指標として、転がり抵抗値、軽量化、耐摩耗性能などダンロップ独自の厳しい環境基準「eco line up」を設定しました。

2015年には国内で販売する市販用タイヤ*の主力商品は、全てこの基準を満たしたものとなります。

※対象品目は、国内市販用の乗用車、バス、トラック、ライトトラック用です。

ヨコハマタイヤ



ヨコハマは、製品開発において環境に貢献する技術、生産に取り組む上で自社基準を設けています。

これに適合した商品のカタログページには「eco MOTION PRODUCT」マークを付与しています。

【8】環境関連法規への違反、訴訟の有無



1. 主な環境関連法規

主な適応法規	要求事項
水質汚濁防止法	特定施設の届出(自動車自動洗車装置等)
下水道法	排水施設の設置義務 特定施設の届出
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理、処理委託業者との契約締結
消防法	少量危険物貯蔵の届出
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理
化管法（P R T R法）	特定物質の排出量・移動量の把握と記録
騒音規制法	特定施設の設置の届出
フロン排出抑制法	業務用エアコンの点検、清掃
浄化槽法	定期的な保守点検、清掃、法定検査の実施

2. 違反、訴訟の有無

当グループにおける環境関連法規への違反、訴訟はありません。

尚、関係当局により違反等の指摘は過去3年間なく、自ら遵守確認しています。

1. 全体評価

企業の環境活動は単なる義務やPR活動にとどまるべきではなく、自社のビジネス活動を持続的に行っていくために、環境保全と事業のバランスを取りながら運営して行かなければならないと認識している。

環境への負荷を低減するためにこれまで推進してきた「残業時間削減を中心とした働き方改革」「工場エアコンの適正使用」「来店型店舗の促進」「洗車有料化」等の取り組みが定着してきたことにより、グループ全体の電力使用量は若干増加したもののガソリンや水使用量の削減につなげることができた。また引き続き店舗の不具合や安全に関する修繕を優先的に実施した結果、店舗の危険個所が減少し効率的な作業の実施につながった。SDGsの取り組みとしては「一つのいのちプロジェクト」と連動したライフセーバーカーの貸し出し、お客様向けAED講習会の開催、思い出のランドセルギフト活動への参加に加え、東海地区スバルグループとしてツナギ服のマテリアルリサイクルを実施することで、安全・環境に対する取り組み強化につながった。2024年度は2023年度に取り組んできたことの定着化に向けてグループ全体で取り組みを行ってきた。

2. 見直し

世界の環境情勢は記録的な高温、異常気象の頻発、気候変動対策の遅れなど深刻な状況となっている中、2024年度の日本経済は賃金上昇を上回る物価上昇や人手不足、円安が経済成長に影響を与えるなど先行き不透明感を残す1年となった。このような状況において、今後社員が将来も安心して働き続けることができる会社にするために、安全面・環境面に関する投資や費用投入を着実に実行することが求められる。また2026年度の3社統合で脱炭素社会をより意識した会社となれるように、引き続きグループ全体で二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいきたい。

なお環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の変更は行わずこのまま継続する。
また実施体制も機能しており、このまま継続する。